

会議録(要旨)

会議名等	令和6年度当事者会 5月定例会	文責	障がい福祉室
日程	令和6年5月16日 午後1時30分～3時30分	場所	メイシアター 第一会議室

1. 「防災ハンドブック」の内容について

「地域との繋がりづくり～みんなで取り組む防災～」についてグループワーク

下記テーマに基づき、A班・B班に分かれてグループワークを行った。

- ① 災害時に介助者(支援者)がいない場合、当事者はどうすればよいか。
- ② 地域の避難場所、避難所について
- ③ 自治会など、地域との繋がりをどのように作っていくか。
- ④ 重度障がい者や医療的ケアを要する障がい者における支援について

【意見】

- ・自分たちの居場所を地域の人に知らせるためには様々なツールの活用が効果的である。たとえば、玄関扉にOKと書かれたプレートを掲示することで世帯の安否を知らせる「OKマーク」や、災害用伝言ダイヤル(171)の活用、救助笛を身近な場所に置いておくこと等が挙げられる。必要時にスムーズに扱えるよう、日ごろから使い方に慣れておく必要がある。
- ・災害に関する最新情報の収集方法を確保することが重要である。避難の要否およびタイミングを判断するために、最も活用できるライフラインの確保が必要である。
- ・防災グッズは災害時に即座に持ち出せることはもちろんであるが、外出中に被災する可能性も考えると、最低3日分の薬や日常生活用具の備えを常時持ち歩くことが望ましい。
- ・自分たちが避難する一時避難所がどこにあるか、把握することは必須である。
- ・自分たちの地域の自治会がどのような防災対策、取り組みを行っているか知る必要がある。
- ・最も身近である近隣住民との繋がりを作るために、日ごろから挨拶をするなど小さなコミュニケーションを積み重ねていくことが重要である。近隣住民だけでなく、民生委員や、地域の活動(敬老会、子ども会、自治会など)に自ら参入し、自分たちの状況を知ってもらうことがつながりづくりにおいて効果的であると考えている。

2. 情報共有

■千里山・佐井寺障がい者相談支援センターから「読書バリアフリー計画」について

チラシの内容について意見交換(当事者から見て分かりやすい内容になっているか等)を行った。

【意見】

- ・知的障がい者には理解が難しいのではないかな。
- ・声が出てしまう等の特性がある障がい者が参加してもいいものなのか、現在の内容では判断できない。
- ・「どなたでも」と表記はあるが、障がい種別に関わらずどんな方でも参加できる、という意味だとしたら表現が分かりにくい。
- ・フリガナ、ルビをいれてはどうか。
- ・「どなたでも参加できます」という文字が小さい。「どなたでも」をより強調するか、もう少しわかりやすく、目につきやすい場所に記載してはどうか。

■土木部 総務交通室から「吹田市バリアフリー マスタープラン」について

土木部 総務皇室により令和6年度にバリアフリーマスタープランを作成し、令和7年に基本構想を作成する予定になっている。現段階を以て、バリアフリーに関して、市民にアンケートを実施するにあた

り、当事者会委員から意見を収集したくアンケートへの参加依頼があった。

■「吹田産業フェア 2024」における点字ブロック敷設について

いずみの園公園(吹田市文化会館メイシアター前)の中に敷設されている点字ブロックが、「吹田産業フェア 2024」開催中は公園外に臨時的に敷設される。

以上